

「切る」の多義分析

許 永蘭

キーワード 「切る」、多義語、文脈的別義、百科事典的意味、比喩

1. はじめに

本稿は現代日本語における切断・分離を表す動詞の中で、極めて多義的な「切る」¹⁾を考察対象とし、それが持つ複数の意味（別義）及びそれら複数の意味の関連性を明らかにすることを目的とする。²⁾本稿と従来が多義語の分析との相違点は、別義以外に、文脈的別義³⁾及び百科事典的意味⁴⁾の認定も行い、それらが多義語の意味拡張に重要な役割を果たしていることを示した点である。

続く2節では、「切る」の意味を記述した先行研究を検討する。3節では、別義、文脈的別義、百科事典的意味の認定を行い、一部の別義と対応する類義語との比較も行う。別義間の関連性はメタファーとメトニミー⁵⁾という2つの比喩の観点から考察する。4節では、「切る」の多義分析のまとめを行う。

2. 先行研究の検討

「切る」に関する先行研究は少なくないが、いずれも多義語としての「切る」の別義及び別義間の関連性を明らかにしているとは言えない。

例えば、「包丁で豆腐を切る」の「切る」の意味について、国広（1997a）は「両手で引っ張って糸を切る」（p.63）という例を挙げ、現行辞典の「刃物（など）で」という記述は不適切であると述べ、「《線状の物を一点で分離させたり、面状の物の一部を線的に分離させたり、立体を滑らかな断面ができるように分断することを指すが、手段に制約はない》」（P.64）と記述している。確かに、「刃物」の使用は「切る」の必要十分条件ではないが、「手段に制約はない」とは考えられない（詳しくは、3. 1. 節を参照のこと）。また、「斧で木を切る（切り倒す場合）」、「チーズを切ったが切り口が汚い」と言う場合には必ずしも「立体を滑らかな断面ができるように分断する」とは限らず、「ハンマーで氷を

割る」、「斧で竹を割る」場合に偶然立体を滑らかな断面ができるように分断しても「切る」とは言えない。

次に、「野菜の水を切る」の「切る」について、『明鏡国語辞典』では「振り落としてたりしたたらせたりして、水分や油気を除く」と記述し、吉村(2003:219)では「尽きるようにする」の意味の下に「振ったりなどして水分を去る」と記述している。しかし、「お風呂の壁についている雫を切る」という文では、水分をしたたらせて除く場合でも「切る」とは言えない。また、「キッチンペーパーで包んで水を切る」、「野菜の水を少しだけ切る」と言えることから、「振り落としてたりしたたらせたりして」という記述だけでは不十分であり、「尽きるようにする」とは限らないことがわかる。

さらに、「8人の識者が環境問題を切る」の「切る」について、『大辞林』、『大辞泉』ではそれぞれ「(比喩的に)欠点をあばいて攻撃する。糾弾する」、「遠慮なく、鋭く批判する」と記述しているが、この例文はそのような意味を表すとは考えられない(詳しくは、3. 6. 節を参照のこと)。また、「応募者が500人を切る」の「切る」について、『広辞苑』、『大辞林』では「(ある数量を)下回る」、「数値が、ある目安・限界よりも小さくなる」と記述しているが、「応募者が499人を切る」、「応募者が200人で、500人を切った」という文が不自然であることから、上記の記述では不十分であることがわかる。

最後に、「切る」の別義間の関連性は、以上のような不適切、あるいは不十分な意味記述に基づいているため、問題があると言える。また、「環境問題を切る」、「応募者が500人を切る」の「切る」と他の別義との関連性は言及されていないか、十分な関連付けがなされておらず、本稿ではこの問題を百科事典的意味との関連性で示すことになる。

3. 分析

本節では「切る」について7つの別義に加えて、文脈的別義、百科事典的意味を記述すると共に、別義間にはメタファーに加え、文脈的別義、百科事典的意味が意味拡張に関わっていることを示す。また、一部の別義に対応する類義語「割る」、「批判する」、「下回る」との比較も行う。

3. 1. 別義1：〈人間・動物が〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉〈分離する〉

- (1) 花子がナイフでパンを切る。

(2) 太郎が両手で引っ張って糸を切る。

(3) 犬が鎖を切って逃げた。

まず、「切る」主体は、「花子」、「太郎」、「犬」のように〈人間・動物〉であり、「切る」対象は、「パン」、「糸」、「鎖」のように〈一続きにつながっている〉〈固体〉である。また、「切る」の力の加え方は、「刃物」の使用を典型とする〈集中的な力を加える〉ことである。というのは、「ナイフ」、「(犬の) 歯」のような「刃物 (に近いと考えられるもの)」を用いる場合には、力が「縁の鋭く薄い」(『広辞苑』)「刃」に集中することになり、「両手」を用いる場合には、力が「糸」という一次元の対象の一点に集中することになるからである。次の例文(4)のように、対象に〈集中的ではない力を加える〉場合には、「切る」は容認不可能である。

(4) a. *ハンマーでガラスを切る。

b. 両手で {?紙/ *パン} を切る。

例文(4a)では、「ハンマー」という鈍器を用いて「ハンマー」と対象の表面との接触個所(面状をなす)に力を加えているため、力は面に分散することになる。また、例文(4b)では、「両手」で二次元、三次元の対象に力を加えるため、力が対象を構成する物質同士の引力が相対的に弱い部分に分散することになる。

最後に、「切る」目的(結果)は、〈力を加えた位置で〉〈分離する〉⁶⁾ ことである。これについて、「割る」と比較して明確にしよう。

(5) 板ガラスの切り方が分からず無駄にしまくっています。ガラス切りで何度も切込みを入れて割ろうとするのですが変なところでヒビが入り上手くいきません。(http://oshiete1.goo.ne.jp/kotaeru.php 3. q=1446700)

この例文は「切り込みを入れた」位置、つまり〈力を加えた位置〉と〈分離する〉位置が異なることを表している。Aという位置で分離するため、Aの位置に切り込みを入れているが、「変なところでひびが入り」、つまりAではないBという位置まで分離してしまうのである。AとBの異なりは、一見「切る」の目的(結果)であると解釈できそうであるが、Bは「切る」による分離位置を表す「切れ目」、「切り口」という言葉では表すことができず、「割る」による分離位置を表す「割れ目」という言葉で表すことになる。このことから、「切る」目的(結果)は、〈力を加えた位置で〉〈分離する〉ことであることがわかる。なお、「切る」目的(結果)は、〈力を加えた位置〉が及ぶ範囲により、対象を二つ以上に完全に分離する場合も、途中まで分離する場合もありうる。例えば、例文(1)は、「ナイフ」で力を加えた位置が及ぶ範囲によって、「パン」を二つ以上に分離することも、途中まで分離することも可能である。⁷⁾

3. 1. 1. 別義1の文脈的別義（以下、別義X-X（-X）で記す）

別義1は共起する目的語が対象の一部分（非本体）を表す場合に、以下の文脈的別義が認められる。

別義1-1：〈人間・動物が〉〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉〈分離することにより〉〈固体の一部分（非本体）を〉〈それ以外の部分から〉〈分離する〉

別義1-1は目的語が表す対象の一部分が、利用者にとって利用価値があるかどうかという捉え方によって、さらに以下の二つの文脈的別義が認められる。

別義1-1-1：〈人間・動物が〉〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉〈分離することにより〉〈固体の一部分（非本体）を〉〈それ以外の部分から〉〈分離して〉〈利用する〉

別義1-1-2：〈人間・動物が〉〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉〈分離することにより〉〈固体の一部分（非本体）を〉〈それ以外の部分から〉〈分離して〉〈除去する〉

以下、上記の文脈的別義について確認しよう。次の例文を見てみよう。

- (6) つぼみから開花したばかりの花を切っておく。
- (7) {花／枝／*幹} を切る。（「花」、「枝」、「幹」という植物の一部分を「植物」のそれ以外の部分から分離する場合）
- (8) a. つぼみから開花したばかりの花を切って、すぐに押し花にすると色鮮やかに仕上がる。（<http://www.87Zh.Zom/varieIy2003/zalsugaku/031/>）
b. 大輪の花を咲かせるために、余分な花を切っていく。

（<http://www.e-daishi.neI/kikkaIen.>（hIm））

まず、例文(6)の対象は、別義1と異なり、目的語の「花」ではなく、「花」を一部分とする「植物」である。というのは、「切る」の「力を加えた位置」は、「花」そのものに存在するのではなく、「花」を一部分とする「植物」のある個所、ここでは、「花」と「茎」との境界の部分、あるいは、「茎」に存在するからである。つまり、「切る」の目的語「花」は、「切る」対象（「植物」）の一部分である。このように「切る」の目的語が対象の一部分である場合に、「切る」は

〈人間が〉〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている固体（「花」を一部分とする「植物」）に対し〉〈集中的な力を加えて（「ハサミ」などを用いる）〉〈力を加えた位置（「茎」）で〉〈分離することにより〉〈固体の一部分（「花」）を〉〈それ以外の部分（「植物」の「花」以外の部分）から分離する〉という文脈的別義を表すことになる。ただし、ここでの〈固体の一部分〉は、例文（7）のように「花」、「枝」は可能でも、「幹」は不可能であることから、固体の「非本体」の部分に限られることになる。

次に、例文(8)の「切る」は、いずれも「植物」の一部分である「花」を「花」以外の部分から分離することを表す。しかし、例文（8a）は「花」を「押し花にする」のように〈利用する〉ことを表すのに対し、例文（8b）は「大輪の花を咲かせるために」、「余分な花」を〈除去する〉ことを表す。この意味の違いは、同じ「花」でも例文（8a）の「花」は利用価値がある存在であり、例文（8b）の「花」は「余分な花」という利用価値がない（あるいは少ない）存在であると捉えられていることによる。つまり、別義1-1は目的語が表す対象が利用者にとって利用価値があるかどうかという捉え方によって、それぞれ〈利用する〉と〈除去する〉という意味特徴が加わることになる。別義1-1-1と別義1-1-2の他の例として、それぞれ「領収書を切る」、「パンの耳を切る」という例が挙げられる。⁸⁾

3. 1. 2. 別義1の百科事典的意味（以下、別義X-③で記す）

別義1-①：〈人間が〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉〈表面に現れていない実態の一面が〉〈見えるようにする〉

別義1-②：〈人間が〉〈人間に対し〉〈身体的ダメージを与える〉

別義1-③：〈人間が〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉〈固体の大きさを〉〈本来の大きさより〉〈小さくする〉

まず、別義1-①は対象の「分離位置」が観察可能な場合に認められる。

- (9) 完熟したりんごを切ると、芯の周辺が黄色く透き通った状態になることがあります。はちみつのような色合いなので、りんごの“蜜”と呼ばれます。（<http://home.tokyo-gas.co.jp/shokul10/shokuzai/426.html>）

例文(9)の「りんごを切ると、芯の周辺が……」という表現は、「りんご」を切る行為は、「りんご」の表面に現れていない一面（「芯」と「芯の周辺」）が見えるようにする行為と同時に生じる事柄であることを表す。このことから、「切る」は対象の〈表面に現れていない実態の一面（「切る」ことによる分離位置）が〉〈見えるようにする〉という百科事典的意味を持つと考えられる。

次に、別義1-②は「切る」が人間を対象とする場合に認められる。

- (10) 乗客の高知県の男性が揺れで転倒、右足を切るなどのけがをした。(毎日新聞1991年)

この例の「けが」という表現は、「切る」行為とく身体的ダメージを与える〉行為が同時に生じる事柄であることを表す。これはさらに、「敵を切る」、「罪人を切る」のように「殺す」という意味を暗示することからも確認できる。もちろん、「切る」が「手術のために腹を切った」という場合は、く身体的ダメージを与える〉のではなくく身体的ダメージを軽減する〉ことであるとも考えられる。しかし、身体を治すための手術であっても、刃物が身体の内部を通過する場合にはわれわれの感覚が正常に働いている限り、痛みを感じるようになり、その痛みはく身体的ダメージ〉と変わらないと考えられる。

最後に、別義1-③は「切る」が「輪ゴム」のような始点と終点が重なるもの以外を対象とする場合に認められる。

- (11) a. 長い髪を短く切った。
 b. *短い髪を長く切った。
 (12) a. 大きいから切った方がいい。
 b. *小さいから切った方がいい。

例文(11a)と(12a)は、それぞれ「長い」、「大きい」対象を「短く」、「小さく」するために「切る」行為を行うことを表しているのに対し、(11b)と(12b)は、それぞれ「短い」、「小さい」対象を「長く」、「大きく」するために「切る」行為を行うことを表しているが、前者のみ「切る」が容認可能である。このことから、「切る」は対象をく本来の大きさよりく小さくする〉という百科事典的意味を持つと考えられる。このことは「爪を切る」、あるいは料理をする経験からも確認できる。

以上、別義1、別義1の文脈の別義及び百科事典的意味⁹⁾について記述した。

3. 2. 別義2：〈人間・動物が〉〈固体と液体の結合体に対し〉〈滴らせる、振る、絞る、(紙などに)吸い込ませることなどによって〉〈液体(の一部分)を〉〈固体から〉〈分離して〉〈除去する〉

- (13) ツナ缶の油を切る [中略]

缶をあけ、ふたでツナを押さえ、缶汁だけを捨ててしまいます。

(<http://baby.goo.ne.jp/member/ninshin/weight/2/07.html>)

- (14) 個体差もあるでしょうけど、子犬は水を怖がります。[中略]水がちょっとでも足につくと足を振って水を切ろうとしていました。

(<http://e-style.in/column/swim.html>)

- (15) せんぎりは水で戻し、水をかえて洗い、きれいにやわらかくする。しぼって水を切っておく。 (<http://www.awamori.or.jp/foods/052.html>)
- (16) 衣がカラッとなったら取り出して、ペーパーの上で吸わせて油を切る。 (<http://asahi.co.jp/hospital//recipe4/main.html>)

まず、「切る」主体は、例文(13)、例文(15)、例文(16)では「人間」であり、例文(14)では「子犬」という「動物」であるように、別義1と同様「人間・動物」である。次に、「切る」対象は、それぞれ「ツナ」と「油」、「足」と「水」、「せんぎり」と「水」、「揚げ物」と「油」のように「固体と液体の結合体」である。ここでいう「結合体」とは、2つ以上の物からなり、それらはそれぞれの存在位置を保持している単一の物として捉えられる存在のことをいう。次の例文(17)における「固体」と「液体」は、「固体と液体の結合体」として捉えられないため、「切る」は容認不可能である。

- (17) *お風呂の壁についている雫を切る。

例文(17)の「壁」と「雫」は、「固体」と「液体」が存在場所（移動できない）と存在物の関係にあり、つまり、「液体」のみが物として捉えられることになり、そのため、2つの物ではなく、1つの物とその物が存在する場所として捉えられることになる。よって、「固体と液体の結合体」として捉えられないことになる。さらに、「切る」の力の加え方は、「滴らせる」（例文(13)）、「振る」（例文(14)）、「しぼる」（例文(15)）、「（紙などに）吸い込ませる」（例文(16)）ということを行うことである¹⁰⁾。そして、「切る」目的（結果）は、例文(13)の「捨てる」という表現から、また、「野菜の水を少しだけ切る」と言えることからわかるように、「液体（の一部）を」「固体から分離して」「除去する」ことである。

さて、別義2は別義1-1-2とメタファーの関係が成り立つ。つまり、別義2と別義1-1-2は、「人間・動物が」「複数の部分からなる」「一続きにつながっている」「物体に対し」「相対的に強い力を加えて」「物体の一部（非本体）を」「それ以外の部分から」「分離して」「除去する」という共通した意味を持つと同時に、「物体」が「固体と液体の結合体」と「固体」、「相対的に強い力」が「滴らせる、振る、絞る、（紙などに）吸い込ませる」ということを行うことと「刃物」の使用を典型とする「集中的な力を加える」ことであるという異なる意味も持っており、類似点を有するという関係が成り立つのである。

3. 3. 別義3：「物・人間・動物が」「液体・気体・複数の個体の中を」「抵抗に打ち勝って」「移動する」

- (18) 船は波を切って進んだ。（『日本語基本動詞用語辞典』）
- (19) 太郎が空気を切って走る。

㉑ 犬が行列を切って通る。(『日本語表現活用辞典』)

㉒ バットが空を切った。

別義3は、ある種の移動を表す意味である。これは、例文(18)~(20)において「切る」の直後に「進んだ」、「走る」、「通る」という移動を表す動詞が共起することから確認できる。移動する主体は、それぞれ〈物〉(「船」、「バット」)、〈人間〉(「太郎」)、〈動物〉(「犬」)であり、移動する空間は、それぞれ〈液体〉(「波」)、〈気体〉(「空気」)、〈複数の個体〉(「行列」)の中である。移動の様態は、例文(18)、(19)、(21)では「勢いよく」移動することであり、(20)では必ずしも「勢いよく」移動するとは限らないが、いずれも移動する空間を〈抵抗に打ち勝って〉〈移動する〉ことである。以下、この移動の様態について確認しよう。

まず、例文(18)、(19)、(21)における移動の様態は、移動する主体が、液体、気体の中を「勢いよく」、つまり、早いスピードで移動することである。この場合、何かが液体、気体の中を早いスピードで移動することになると、ゆっくり移動する場合に比べ、液体、気体による抵抗に打ち勝って移動することが必要になる。次に、例文(20)における移動の様態は、必ずしも「勢いよく」移動するとは限らない。しかし、移動する空間に注目するとそれは「行列」という「多くの人が、順序よく並ぶこと。また、その列」(『大辞林』)であり、多くの人が順序よく並ぶためには、多くの人がそれぞれの存在位置(一定の距離)を保持することが必要である。そのため、その存在位置を変化させようとするものに抵抗感を感じさせることになり、従って、「犬」が「行列」の中を移動する場合は、「行列」が持つ「一定の距離を保とうとする」抵抗に打ち勝って移動することになる¹¹⁾。

さて、別義3は別義1とメタファーの関係が成り立つ。このメタファーは別義1の動作の様態との類似性に基づく。別義1の典型的な動作の様態は、刃物が主体からの力を受けて〈一続きにつながっている〉〈固体〉の中を通過することである。〈一続きにつながっている〉〈固体〉には物質同士がそれぞれの存在位置を保持させるような結合力が存在することから、刃物がその中を移動する場合には、物質同士の結合力による抵抗に打ち勝って移動することになる。別義3は、別義1のこの動作の様態と類似性を持つ。つまり、別義3は別義1と〈移動する主体が〉〈移動する空間の中を〉〈抵抗に打ち勝って〉〈移動する〉という共通した移動様態を表す一方、移動する主体が〈物・人間・動物〉と〈刃物〉、移動する空間が〈液体・気体・複数の個体〉と〈一続きにつながっている〉〈固体〉という相違点もあり、類似していることになる。

3. 4. 別義4：〈人間・動物が〉〈一続きにつながっている〉〈固体ではないものに対し〉〈集中的な働きを加えて〉〈働きを加えた位置、あるいは時点で〉〈分離する〉〈または消失させる〉

- (22) 歯ブラシを使って磨いている間は水を水道を切っておいてもいいんですが、意外と出しばなしでやっている人が多いという〔後略〕
 (<http://www.town.tatsuno.nagano.jp/gikai/minutes/20060300i.pdf>)
- (23) 散歩が愛犬のストレス解消になるのは何故だと思いますか？運動だけなら、室内で息を切っておもちゃを追いかけさせるほうが効果があるかもしれません。 (http://www.perfectfit.jp/shih_tzu/health_exe/exercise.html)
- (24) 先日のこの欄に、寝ているくせに野球中継のテレビを切ると怒る夫の話が出ていた。(朝日新聞2000年)
- (25) 元参院議員の浦田勝氏(78)はいったん言葉を切って、叫んだ。「一切そういうことはございません！」(朝日新聞2004年)
- (26) 正方形を直線で切るときと、〔後略〕(毎日新聞2003年)
- (27) 直方体のある平面で切る。

まず、「切る」主体は、例文(22)、例文(24)～(27)では〈人間〉であり、例文(23)では「愛犬」という〈動物〉であるように、別義1、2と同様〈人間・動物〉である。次に、「切る」対象は、それぞれ「水道(の水)」、「息」、「テレビ(の稼動状態)」、「言葉」、「正方形」、「直方体」のように〈一続きにつながっている〉〈固体ではないもの〉である。また、「切る」の働きの加え方は、例文(22)、(24)、(25)では「蛇口を閉める」、「スイッチを押す」、「沈黙を入れる」のように、空間的・時間的に一次元的につながっている対象の一点・時点で働きを加えることであり、例文(26)、(27)では「正方形を直線で切る」、「直方体のある平面で切る」というように空間的に2次元、3次元につながっている対象の一つの線、面に働きを加えることである。これらはいずれも〈集中的な働きを加える〉ことであると考えられる。最後に、「切る」の目的(結果)は、例文(22)～(25)は、「水道(の水)」、「息」、「テレビ(の稼動状態)」、「言葉」に対し、〈働きを加えた位置、あるいは時点で〉〈分離する〉〈または消失させる〉ことであり、例文(26)と(27)は、〈働きを加えた位置(一つの線、一つの面)で〉〈分離する〉ことである。

別義4は別義1とメタファーの関係が成り立つ。つまり、別義4は別義1と〈人間・動物が〉〈一続きにつながっている〉〈ものに対し〉〈集中的な作用を加えて〉〈作用を加えた箇所〉〈分離する〉という共通した意味を持つ一方、〈一続きにつながっている〉〈もの〉が〈固体ではないもの〉と〈固体〉、作用の加え方が「刃物」を用いないことと「刃物」の使用を典型とすること、目的(結果)が〈働きを加えた位置、あるいは時点で〉〈分離する〉〈または消失させる〉

ことと〈働きを加えた位置で〉〈分離する〉ことという異なる意味も持っており、類似している。

3. 5. 別義5：〈人間が〉〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈抽象的なものに対し〉〈抽象的な働きを加えて〉〈抽象的なものの一部分（非本体）を〉〈それ以外の部分から〉〈分離して〉〈除去する〉

- (28) 専門試験では各問分からなくてもじっくり考えてなんとか正答を出すと
言う姿勢ですが、教養試験は分からなければ即、問題を切る（＝捨てる）
姿勢が必要です。（<http://www.tcat.ne.jp/m284/kyouyunoimi.htm>）
- (29) 土俵を去る悔しさはさぞかしと思うが、取り口同様の「速攻」で、未練
をスパッと切って捨てた。（毎日新聞1991年）
- (30) 「君のところより他社の方がいい運用実績をあげてくれるよ」と企業側が
準大手証券を“切る”ケースは日常茶飯事。（毎日新聞1991年）

まず、「切る」主体は、これまでの別義と異なり〈人間〉のみである。また、「切る」対象は「わからない問題」を一部分とする「教養試験の問題」（例文(28)）、「未練」を一部分とする人間の感情（例文(29)）、提携契約によって結ばれた「企業」と「準大手証券」（例文(30)）のような、人間の知的、情的、社会的活動と関わる〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈抽象的なもの〉である。「切る」の働きの加え方は、「問題を解かない」（例文(28)）、「土俵への未練をなくす」（例文(29)）、「準大手証券」と結ばれた契約を「解約する」（例文(30)）ことであると考えられるが、これらは、精神的・社会的働きを加えるという〈抽象的な働きを加える〉ことである。最後に、「切る」目的（結果）は、例文(28)、例文(29)の「捨てる」という表現からわかるように〈分離して〉〈除去する〉ことであり、例文(30)でも「準大手証券」を「企業側」から〈分離して〉〈除去する〉ことであると考えられる。

さて、別義5は別義1-1-2とメタファーの関係が成り立つ。というのは、別義5は別義1-1-2と〈人間が〉〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈ものに対し〉〈作用を加え〉〈ものの一部分（非本体）を〉〈それ以外の部分から〉〈分離して〉〈除去する〉という共通した意味を持つ一方、〈複数の部分からなる〉〈一続きにつながっている〉〈もの〉が〈抽象的なもの〉と〈固体〉、〈作用〉が「解約する」などのようなく抽象的な働きを加えることと「刃物」の使用を典型とする〈集中的な力を加える〉ことであるという異なる意味も持っており、類似点を有するという関係が認められる。

**3. 6. 別義6：〈人間が〉〈人間及び人間の営み（の結果として生じた物事）に
対し〉〈優れた知的働きを加えて〉〈表面に現れていない実態の一面を〉〈明らかに
にする〉**

- (1) 渡辺正行の笑いの構造一心の奥から笑いを斬る（新書）〔中略〕
目立つ、ウケルための奥義を初公開。

(http://www.amazon.co.jp/gp/product/toc/4331005135/ref=dp_toc/249-5216589-3201912?ie=UTF8&n=465392)

- (2) 集団熱狂35日「小泉劇場」を激評する。〔中略〕何が国民をかくも熱狂させたのか。そして、フィーバーの陰に隠されたものは何だったのか。真夏の選挙戦を8人の識者に切ってもらった。

(http://info.yomiuri.co.jp/mag/yw/archive/05_9_25yw_moku.htm)

まず、「切る」主体は別義5と同様に〈人間〉であり、「切る」対象は「笑い」、「選挙戦」という〈人間及び人間の営み（の結果として生じた物事）〉である。次に、「切る」の働きの加え方は、それぞれ「本で述べる」、「激評する」ことであると考えられるが、その主体が「本の著者」、「識者」といういずれも当該分野の専門家であると考えられることから相対的に〈優れた知的働きを加える〉ことであることがわかる。最後に、「切る」目的（結果）は「奥義を初公開」、「何が国民をかくも熱狂させたのか。そして、フィーバーの陰に隠されたものは何だったのか」という「問い」に「答える」ということのように、対象の〈表面に現れていない実態の一面を〉〈明らかにする〉ことである。これについて「批判する」と比較して確認しよう。

- (3) 省庁の腐敗を {切る／批判する} 記事が次々に出る。

- (4) この春、3月30日の定例会最終日、私の意見開陳では、下北沢再開発の問題に対し、反対する方々の声に耳をかたむけない、反対する側のグループには一切お会いにならない区、区長の対応を鋭く {?切った／批判 [した]}。

(<http://ah-yeah.com/nadiary0606.html>)

例文(3)は「切る」と「批判する」が言い換え可能であり、「省庁の言動・仕事などの誤り、欠点である『腐敗』を指摘し、正すべきであると論じる」という同じ真理条件的意味を表す。それに対し、例文(4)は「批判する」は容認可能であるが、「切る」は不自然である。それは、例文(4)の目的は「反対する方々の声に耳をかたむけない、反対する側のグループには一切お会いにならない区、区長の対応」、つまり〈表面に現れている実態の一面〉を「批判する」ことであるからである。仮に、例文(4)の目的が「区、区長の対応」の「表面に現れている実態の一面」を「批判する」のではなく、その背景、原因のようなく表面に現れていない実態の一面を〈明らかにする〉ということになると、「区、区長の

対応を切る」と言えるようになる。このことから、「切る」の目的（結果）は〈表面に現れていない実態の一面を〉〈明らかにする〉ことであり、「批判する」は必ずしもそうではないことがわかる。

ところで、別義6は次の例文③⑤の「ベッキーを斬った際、ベッキーが激怒し」、「大変落ち込んだ」という文脈から、以下の別義6－①で示した百科事典的意味を持つと考えられる。

- ③⑤ [波田陽区は]『エンタの神様』でベッキーを斬った際、ベッキーが激怒し、恐ろしい思いをした。ベッキーは波田に斬られたことに大変落ち込んだという。

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B3%A2%E7%94%B0%E9%99%BD%E5%8C%BA>)

別義6－①：〈人間が〉〈特定の人間に〉〈精神的・社会的ダメージを与える〉

この百科事典の意味は、「切る」が特定の人間及びその営みを対象とする場合に、好ましいことには用いられないことから確認できる。

- ③⑥ アンチスパマーの黄泉が、漫画を使って |悪行／*善行| を叩き斬る!!!
(<http://me.blog1.fc2.com/blog-date-200606.html>)
- ③⑦ 行政の |腐敗／*清廉| を斬る記事。

つまり、好ましいことに用いる場合には、〈特定の人間に〉〈精神的・社会的ダメージを与える〉ことにはならず、そのため容認不可能になると考えられる。なお、ここで〈特定の〉という意味特徴を加えたのは、次の例文③⑧のように別義6が全ての人間の営みを対象とする場合には〈精神的・社会的ダメージを与える〉という百科事典の意味を表さないからである。

- ③⑧ 食べるときのしぐさやテーブル・マナーとか衣服を着ることとか非常に身近な日常的な問題を、単に日常的な趣味の世界の描写に終わらせないで、社会学的な概念で切っていく。(毎日新聞1991年)

さて、別義6は別義1及び別義1－①と、別義6－①は別義1－②とそれぞれメタファーの関係が成り立つ。まず、別義6は別義1及び別義1－①と〈人間が〉〈一続きにつながっている〉〈ものに対し〉〈集中的な作用を加えて〉〈表面に現れていない実態の一面が〉〈捉えられるようにする〉という共通した意味を持つ一方、〈一続きにつながっている〉〈もの〉が〈人間及び人間の営み（の結果として生じた物事）〉と〈固体〉、〈集中的な作用〉が〈優れた知的働きを加える〉ことと「刃物」の使用を典型とすること、〈表面に現れていない実態の一面が〉〈捉えられるようにする〉ことが〈知的に捉えられるようにする〉ことと

〈視覚的に捉えられるようにする〉ことであるという異なる意味も持っており、類似点を有するという関係が成り立つ。次に、別義6-①は別義1-②と〈人間が〉〈人間に〉〈ダメージを与える〉という共通した意味を持つ一方、〈ダメージ〉が〈精神的・社会的ダメージ〉と〈身体的ダメージ〉であるという相違点もあり、類似していることになる。

3. 7. 別義7：〈ある測定値が〉〈基準値より〉〈わずかに〉〈小さくなる〉 〈基準値：区切りとなる数値、あるいは意味のある数値〉

- (39) 今年の交通事故死者数は6,871人で、49年ぶりに7,000人を切った。
 (40) 今日の株価は一万円を切って9890円となった。
 (41) そのせいか適性試験の点数は平均を切ってしまいました。

(<http://www.itojuku.co.jp/14voice/2005hoka/7637.html>)

まず、「切る」主体は「交通事故者数」、「株価」、「適性試験の点数」という測定対象の測定値であり、「切る」対象は「7,000人」、「一万円」、「平均」というある基準値である。この基準値は、「7,000人」、「一万円」のように連続的な数値の中で〈区切りとなる数値〉、あるいは「平均」のような成績の善し悪しにおいて意味を持つような〈意味のある数値〉である。「切る」は、〈測定値が〉〈基準値より〉〈わずかに〉〈小さくなる〉ことを表す。以下、これについて「下回る」と比較して確認しよう。

- (42) 先日警察庁が発表した2005年の交通事故死者数によれば、前年比6.6%減の6,871人で49年ぶりに6,872人を {*切った/下回った}。
 (43) 今日の株価は一万円を {*切って/下回って} 3900円となった。

例文(42)における「切る」は、基準値が区切りとなる数値、あるいは意味のある数値として想定できない場合であり、容認不可能となる。また、例文(43)における「切る」は、測定値が基準値より大幅に小さくなっているため、容認不可能となる。それに対し、「下回る」はいずれも容認可能である。

別義7は別義1-③とメタファーの関係が成り立つ。というのは、別義7は、別義1-③の結果と〈あるものの大きさが〉〈本来の大きさより〉〈小さくなる〉という共通した意味を持つ一方、〈あるものの大きさ〉は〈測定値〉と〈固体の大きさ〉、〈本来の大きさ〉は〈基準値〉と〈(固体の) 本来の大きさ〉、〈小さくなる〉は〈わずかに〉〈小さくなる〉ことと必ずしも〈わずか〉ではないことという異なる意味も持っており、類似していることになる。

4. まとめ

3節で考察した「切る」の意味をまとめると以下の通りである。

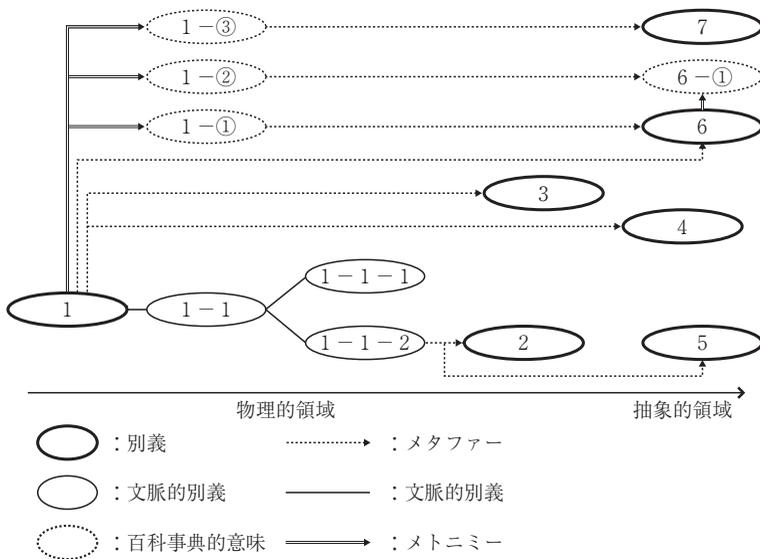
- 別義 1** : <人間・動物が> <一続きにつながっている> <固体に対し> <集中的な力を加えて> <力を加えた位置で> <分離する>
- 別義 1-1** : <人間・動物が> <複数の部分からなる> <一続きにつながっている> <固体に対し> <集中的な力を加えて> <力を加えた位置で> <分離することにより> <固体の一部分（非本体）を> <それ以外の部分から> <分離することにより> <固体の一部分（非本体）を> <それ以外の部分から> <分離して> <利用する>
- 別義 1-1-1** : <人間・動物が> <複数の部分からなる> <一続きにつながっている> <固体に対し> <集中的な力を加えて> <力を加えた位置で> <分離することにより> <固体の一部分（非本体）を> <それ以外の部分から> <分離して> <除去する>
- 別義 1-1-2** : <人間・動物が> <複数の部分からなる> <一続きにつながっている> <固体に対し> <集中的な力を加えて> <力を加えた位置で> <分離することにより> <固体の一部分（非本体）を> <それ以外の部分から> <分離して> <除去する>
- 別義 1-①** : <人間が> <一続きにつながっている> <固体に対し> <表面に現れていない実態の一面が> <見えるようにする>
- 別義 1-②** : <人間が> <人間に> <身体的ダメージを与える>
- 別義 1-③** : <人間が> <一続きにつながっている> <固体に対し> <固体の大きさを> <本来の大きさより> <小さくする>
- 別義 2** : <人間・動物が> <固体と液体の結合体に対し> <滴らせる、振る、絞る、（紙などに）吸い込ませることなどによって> <液体（の一部分）を> <固体から> <分離して> <除去する>
- 別義 3** : <物・人間・動物が> <液体・気体・複数の個体の中を> <抵抗に打ち勝って> <移動する>
- 別義 4** : <人間・動物が> <一続きにつながっている> <固体ではないものに対し> <集中的な働きを加えて> <働きを加えた位置、あるいは時点で> <分離する> <または消失させる>
- 別義 5** : <人間が> <複数の部分からなる> <一続きにつながっている> <抽象的なものに対し> <抽象的な働きを加えて> <抽象的なものの一部分（非本体）を> <それ以外の部分から> <分離して> <除去する>
- 別義 6** : <人間が> <人間及び人間の営み（の結果として生じた物事）に対し> <優れた知的働きを加えて> <表面に現れていない実態の一面を> <明らかにする>

別義 6-①：〈人間が〉〈特定の人間に〉〈精神的・社会的ダメージを与える〉

別義 7：〈ある測定値が〉〈基準値より〉〈わずかに〉〈小さくなる〉

〈基準値：区切りとなる数値、あるいは意味のある数値〉

また、「切る」の7つの別義間の関連性を示す多義構造は次に示した図のとおりである。この図からわかるように、「切る」の意味は物理的領域から抽象的領域へ連続的に拡張している。例えば、別義1から別義3は物理的領域の意味を表し、別義4は物理的領域の意味と抽象的領域の意味の両方を表し、別義5から別義7は抽象的領域の意味を表す。



注

- 1) 実例として引用する場合以外は、「切る」を「斬る／伐る／截る／剪る」といった他の表記も含めた総称として扱う。この表記の違いは意味の違いに対応していると思われるからである。なお、本稿は、「切る」が「値切る」、「読み切る」ように複合語の構成要素として用いられる場合の意味、「しらを切る」、「啖呵を切る」、「見えを切る」、「トップを切る」、「ハンドルを切る」のように慣用表現の中で用いられる場合の意味は、今後の課題とする。

- 2) 『多義語』(polysemic word)とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う。(国広1982:97)。本稿もこの定義に従う。
- 3) 文脈的別義とは、一つの意味が文脈の相違によって生じる、異なって見える意味のことである。
- 4) 「ある語の百科事典的意味とは、その語が指し示す対象(の典型的なもの、代表的なもの)が持つ諸々の性質・特徴、さらには、その対象と関連を持つ(その対象から連想される)様々な事柄のことである。」(初山2003:80)。本稿もこの定義に従い、「切る」の百科事典的意味はその動詞が表す行為と関連を持つ事柄、ここでは、同時に生じるという時間的同時性が認められる事柄とする。
- 5) 「メタファーとメトニミー」については、初山(2001:34-35)の定義に従う。
 メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。
 メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、あるいは二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。
- 6) 「分離する」とは、一つのを二つ以上のものにしたたり、一つのもの的一部分を二つ以上のものにしたたりすることを言う。従って、針、あるいは箸で豆腐に穴をあけるような場合には、豆腐(の一部分)を二つ以上のものにしていないため、「分離する」とは言えない。
- 7) スプーンをプリンの中に入れる(スプーンの頭の部分のみ)場合には、別義1の意味記述を満たしているにもかかわらず、「切る」ではなく「挿す」、「掬う」等が用いられる。これは、スプーンをプリンの中に入れる行為のデフォルトの目的は対象を<力を加えた位置で><分離する>ことよりも、スプーンを対象の内部に入れて、対象の一部を取りあげることにあるからである。ただし、本来<力を加えた位置で><分離する>という目的ではない行為でも、その目的を<力を加えた位置で><分離する>ことであると文脈によって特定できると、「彼女は {スプーン/箸} で豆腐を切った」という表現が容認可能となる。このことから、別義1の意味記述を満たしている場合、目的が他に決まっている場合には、「切る」は容認できなくなり、別義1の目的を実現する文脈が特定できる場合には、「切る」が容認できるようになることが分かる。
- 8) 本稿における文脈的別義は、国広(1997b)の動詞「とる」の意味分析と通

じるものがある。国広（1997b）によれば、以下の3例は、いずれも〈把握〉という動作を表すが、(i b)と(i c)は、〈把握〉に加え、目的語が表す対象が価値のあるものかどうかという解釈者の認知の仕方により、それぞれ〈獲得〉と〈除去〉という意味を表す。

(i) a. チョークを手にとって黒板に字を書く。

b. 川で魚をとる。

c. 庭の草をとる。(国広1997b:132)

- 9) 別義1の百科事典的意味は、別義1が表す行為と同時に生じる事柄を表すため、別義1と時間的隣接性（ここでは同時性）に基づくメトニミーの関係が成り立つ。
- 10) なお、「電子レンジで水を切る」という周辺の事例も認められる。
- 11) 「十字を切る」における「切る」は「手」の移動様態が必ずしも〈抵抗に打ち勝って〉〈移動する〉とは限らないため、別義3の周辺の事例である。

引用文献

- 国広哲弥（1982）『意味論の方法』、大修館書店
- 国広哲弥（1997a）『理想の国語辞典』、大修館書店
- 国広哲弥（1997b）「文脈的多義と認知的多義」、佐藤泰正編『梅光女学院大学公開講座論集』（第40集）、笠間書院、pp.124-143
- 初山洋介（2001）「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」、山梨正明他編『認知言語学論考』（第1号）、ひつじ書房、pp.29-57
- 初山洋介（2003）「認知言語学における語の意味の考え方」、『日本語学』（9月号 第22巻 第10号）、明治書院、pp.74-82
- 吉村公宏（2003）「第4章 認知語彙論」、吉村公宏編『認知音韻・形態論』、大修館書店、pp.195-239
- 『明鏡国語辞典』北原保雄編（2002）、大修館書店
- 『広辞苑 第五版』新村出編（1998）、岩波書店
- 『大辞林 第二版』松村明編（1995）、三省堂
- 『大辞泉』松村明監修（1995）、小学館

例文出典

- ① 検索エンジン google (<http://www.google.co.jp>)
- ② CD-ROM版『毎日新聞（'91～'95）』
- ③ 朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵（きくぞう）II for Libraries」

- ④ 小泉保他編 (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』、大修館書店
- ⑤ 姫野昌子監修 (2004) 『日本語表現活用辞典』、研究社